

## 家老が創った明治維新 ～鹿児島に残るリーダーたちの足跡～

鹿児島県立鶴丸高校 徳田幸太郎 向井大和 玉利優太

### 〈研究の目的〉

幕末・明治の薩摩藩の活躍といえば、西郷隆盛や大久保利通の名が有名ですが、彼らの活躍には「中間管理職」にあたる家老の存在が欠かせません。鹿児島に残る家老たちの「足跡」をたどって、その功績を多くの人に知っていただきたいと思います。

### 〈家老とは？〉

- 藩の政治・経済を補佐・運営
- 複数人（7名前後）
- 主に表方・奥方・勝手方がある
- 城代家老は藩主代理
- 初代から幕末まで合計162人
- 『老』＝「成熟した経験を持つ」

### 〈新資料〉



小松帯刀の写真  
体が曲っていて、  
体調が悪い。使と  
パークス英行使と  
会う前に撮られ  
たとされる  
×小松活世氏蔵

### 〈幕末の家老〉



小松帯刀(清廉)  
維新の一人家老  
薩長同盟の實現  
大政奉還の親交  
徳川慶喜と親交  
坂本龍馬の総局顧問  
政府の総裁局顧問  
堺事件を解決  
「幻の宰相」  
日本初の新婚旅行



桂久 武  
赤山 韋負の 実弟  
西郷 隆盛の 盟席  
薩長 同盟の 同力  
霧島 南戦の 死  
西南 戦争で 戦死



岩下 誠組の首領格  
薩英 戦争の和平  
パリ 万博で渡航



豊後式部  
神社には  
久武の記  
島開の  
碑が



調所 広郷(笑左衛門)  
薩摩 藩勝手倒家老  
借金 踏み倒し化  
財取 黒字(密貿易)  
琉球 糖専売(黒糖地  
黒糖 専売)

# 企画① <日置家老巡りツアー>

日置には小松氏の領地・吉利や日置島津家ゆかりの史跡があった。  
 清浄寺 鬼丸神社 園林寺跡 桂山寺跡



小松家やその祖先平家ゆかりの文化財が多数  
 主祭神 禰寝 16代重長公  
 領地替えの際大隅から勧請



お飯屋跡



南谷城跡 旧吉利小松氏が使用  
 主祭神 鎌倉権三郎景政



小松(禰寝)家の菩提寺。帯刀をはじめ一族の墓が並ぶ  
 桂久武の兄で西郷隆盛の師。お由羅騒動で切腹。

大乗寺跡 日置島津家老久風、久徴がある  
 菩提寺 島津家務めた島津

調所広郷招魂墓 調所は美山の黨業振興に尽力した

# 企画② <かごりんで行く!! 鶴丸城下家老巡りMAP>

鹿児島市内にもさまざまな家老の「足跡」が!! かごりんに乗って史跡を巡ってみてはいかがでしょうか?

若き薩摩の群像



調所広郷像 天保山砲台跡



千眼寺跡 (薩英戦争本陣跡)



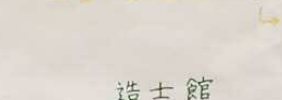
小松帯刀 原良別郎跡



調所広郷郎跡



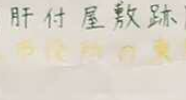
岩下方平宅跡 二宮橋通り



岩下方平 所有地跡 三宮橋



小松帯刀 生誕の地 (肝付屋敷跡)



日置屋敷跡 日置裏門通り



造士館 演武館 医学院跡



小松帯刀像 屋敷跡



照国神社



鶴丸城跡



開成所跡



磯天神菅原神社



石橋記念公園 祇園州公園



調所広郷の墓 (福昌寺跡)



桂久武の墓 (南州墓地)



## 明治技術の活用 with 集成館

二階陽平・肝付駿介・重村拓夢(鹿児島県立甲南高等学校2年)

### 研究背景

2018年は明治維新150周年ということで、大河ドラマ『西郷どん』が放送され、鹿児島に注目が高まった。中でも、渡辺謙さんが演じた島津斉彬公は物語序盤で命を落としたにも関わらず、視聴者の心を掴み、人気を博した。このようなブームの中でさらに鹿児島を全国にアピールしていくために注目すべきは、彼が残した、集成館だ。私たちはその中で、当時の薩摩の在来技術を活用して作られた耐火レンガ、それによって構成された反射炉に注目し、調査した。



### 1 反射炉について

大砲製造のために鉄鉄を溶かして大砲の鑄型に流し込むための炉である

#### 1. 反射炉完成までのプロセス

嘉永5年冬(1852)

- ・第1号の反射炉の建設に取り組む
- ・鹿児島城内の実験場で反射炉の原型が作られ、オランダ人の記した鉄製大砲の製造方法の本を基に建設に取り組んだ。

嘉永6年(1853)

- ・本格的な反射炉(第1号)が完成
- 一鉄製の砲弾を作ることに成功した。しかし、湿気対策が不十分で炉の温度が上がらず、耐火レンガの質も悪く、鉄製砲鑄造には至らなかった。

安政元年7月(1854)

- ・天草陶石の導入(安政元年7月29日付 三原藤五郎宛書状より)

- 一斉彬が耐火レンガの質を上げるために天草の土を使うように薩摩焼の陶工たちに指示した。

安政2年4月

- ・薩摩焼陶工 星山仲次による経過報告

安政3年5月

- ・耐火レンガ生産成功(安政3年5月頃 『十郎』より)

安政4年5月

- ・2号反射炉完成(安政4年5月9日『日記』より)

- 一基礎部分も頑丈に造られ、湿気対策も強化された。2号炉は、薩摩を訪れたオランダ人カッペンディーケに賞賛された。

- 完成後、反射炉を中心として、溶鉄炉やガラス工場が建設された。

#### 2. 活用された在来技術

反射炉をつくるにあたって、島津斉彬は薩摩焼の陶工たちに、その建設を任せた。

参考にしたのはオランダの技術書(U.ヒューゲニン著「ロイク王立鉄製大砲鑄造所における鑄造法」)だけであり、陶工たちは試行錯誤しながらも、様々な土や方法を試し、完成させた。中でも耐火煉瓦の製作に関わった陶工として有名なのは、星山仲次だ。彼は、薩摩焼の製作に用いていた「星山之土組」と呼ばれる土の組成を使って耐火煉瓦を作ろうと試みた。これは失敗に終わったが、在来技術を用いて試行錯誤した彼らの努力によって、反射炉を完成させることができたといえるだろう。

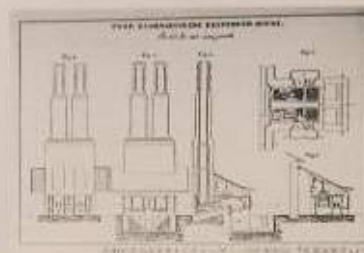


図 ヒューゲニンの反射炉

## 2 溶鉱炉について

**反**射炉について調べていく中で、集成館事業に関わった設備として、反射炉とともに「溶鉱炉」についての記述がある資料を多く見つけた。溶鉱炉とは、鉄鉱石を加工に使えるようにするために、一度溶かして銑鉄にする設備である。私たちはこの設備にも反射炉と同じように鹿児島県の在来技術が関わっているのではないかと考え、調査を進めた。

### 1. 集成館事業における溶鉱炉

反射炉と同様にオランダの技術書をもとに作られた。1854年に島津斉彬が洋式高炉(溶鉱炉)を建設し、日本で初めて換業に成功する。高さは約7.2m。炉の温度は1200度から1500度に保つ必要があった。

### 2. 活用された在来技術

薩摩藩独自の製鉄技術が、溶鉱炉の発展を支えた。当時の日本で製鉄といえば、たたら製鉄が主流であったが、薩摩には石組製鉄炉と水車を利用した独自の製鉄方法があった。島津斉彬はたたら製鉄でつくられる和鉄が大砲製造に向かないことを知り、利用しなかったと言われている。

#### ・たたら製鉄

砂鉄と木炭を炉で燃やして鉄をつくる製鉄法。たたら(ふいご)を踏んで風を送り炉内の温度を上げる。刀剣などの鉄がこの方法で作られている。(この製鉄法で作られる和鉄はもろく、大砲製造には向いておらず、使われなかった)

#### ・石組製鉄炉

凝灰岩製の切石や自然石を組み、積み上げた炉。燃料と原料を投入するための歩廊がついている。

#### ・水車

炉に風をおくり、炉内を高温に保つために水車動力が用いられた。

## 4 イベントについて

**私**たちが提案するイベントは、先述した耐火レンガ、反射炉、溶鉱炉の技術を用いて窯を作成し、食事を提供するものである。対象…歴史にあまり興味がない人、興味はあるが詳しくはない人とし、参加者がイベントを通して自然と、楽しみながら歴史の体験が出来ることをコンセプトとする。

### 1. 窯について

窯には主に、一層式、二層式の二種類がある。

#### 〈一層式〉

利点：温まりやすい

コンパクトに作れるため広さが限られる場所に向く

欠点：蓄熱性が二層式に比べ低いため短時間で調理する必要性あり

#### 〈二層式〉

利点：窯の温度が下がりにくい

遅い焼きが可能のため長時間調理に向く

欠点：窯口が二つあるので全体的に大きくなる

左右の壁に渡す焼き床の考慮が必要(耐火性

のある大きな一枚板が必要)

## 3 考察

**薩**摩藩藩主となった島津斉彬は外国の脅威により、鹿児島県の発展の必要性を人一番感じていたのだろう。それは、オランダの書物を解読し反射炉や、大型船等をいち早く作ったことからもうかがえる。また、この先見の明は斉彬だけが持っていたものではなく、多くの国内の博識者が共通して持っていたものであり、同時期に静岡県や佐賀県で同様の反射炉が建造されている。

これらのことから、明治維新における外国技術の導入は鹿児島固有のものではなく、日本全体で起こったものであったと考察する。鹿児島は鎖国間も外交関係を持っていたため、発展の波に乗ることができたのだ。

しかし、鹿児島に当時あった技術を用いることで、外国から輸入した技術を発展させたことは他には見られず、鹿児島固有のものだ。今回調査したことからも、薩摩人の飽くなき探求心や向上心が見て取れた。

「西郷どん」のブームにより活気だっている鹿児島をさらに盛り上げ、またそれを持続させるためには、こういった鹿児島県の他にはない技術力やその発展の経過などを、広めていくことが必要だ。



鹿児島県立歴史博物館蔵



## 明治×鹿児島

～郷土の暮らしの変化～

牧原 佑 松元 彪流 吉村 優大 鹿児島県立甲南高等学校

### テーマ

明治の暮らし 当時の人々の暮らしぶりの変化について

### 研究の動機

明治維新から150年が経ち、郷土の歴史を学ぶいい機会であり、最も身近で変化が大きかったと思われる日常生活に興味を持ったため。また、その生活について研究することで、鹿児島独自の文化について多くの人に鹿児島にしかない良さを伝えたいと思い、それが観光の発展に繋がると思ったため。

### 課題

鹿児島には多くの歴史資源が存在する。特に、明治維新に関する史跡等も鹿児島市内を中心に集積する。

しかし、歴史について学んでいないと魅力が伝わりにくいという問題がある。

→身近で、分かりやすい歴史を伝える。



### 人々の暮らしの変化

明治時代における鹿児島に住む人々の生活を、明治に入ってから変化していった人々の暮らしと比較するために、都市部の生活様式の移り変わりを調査した。その中でも衣・食文化に着目し「明治時代」と聞いてイメージしやすいものを取り上げた。

#### ・衣文化

庶民の多くは明治に入っても着物を着ており、着物に代わって洋服を着るようになったのは、明治初期は軍人や役人、上流階級の人だけであった。主に彼らの制服や礼服として用いられた。その後、庶民の中にも洋服を着る人が出てきた。和洋折衷のような恰好も見られた。また、断髪令によりちょんまげが禁止されていった。髪型の変化に伴い帽子の流行も起こった。



#### ・食文化

明治に入り牛肉を食べる文化が伝わり、牛鍋が流行した。明治元年に東京で初めて本格的な牛鍋店の営業が開始されるが、当初は受け入れられず客は少なかった。しかし、明治5年に明治天皇が牛肉を食べたことが報道されるなど政府が推進したことによって、次第に新しい西洋の食として広まった。同様に、牛乳の飲用も勧められ、当時は保冷技術が未発達だったため、鮮度を保つために販売所に隣接して牧場があった。



一方で、外国人によるビール醸造所が明治2年に横浜にできると、明治4年には大阪に日本人経営の醸造所も運営された。

### 明治時代の鹿児島の生活

#### 自転車の利用

自転車の初の国産車は、明治23年に和泉栄之助が制作した。明治30年ごろには、鹿児島でもかなりみられるようになり、洲崎長土手の教習所では、1円50銭で乗れるまで教えた。(当時米一升14銭であった。)

また、明治35年には、自転車が電報に使われるようになった。自転車は、まず、局から離れた地域により早く届けるために使われた。



#### 能

明治時代の初め、能がよく演じられ、現在の東千石町の中西屋敷を舞台として使った「能会社」があった。もともこの会社は廃藩後、俸禄や仕事を失った能役者の救済事業であったようだ。

#### 電気灯

明治31年8月、鹿児島市に初めての電灯が設置された。電気会社は顧客が増えて、順調であった。しかし、当時、電気の炭素繊維の質は安定せず、切れてしまうことが多く、たびたび明かりが消えて顧客の信用を失ってしまうこともあった。当時、電気会社は広小路(現在の山下町)にあった。



#### 広口の木市

現在、甲突川河畔に開く鹿児島市の風物詩、木市の始まりは明治10年ごろ、広口馬場で開かれたのが始まりとされている。

### 郷土の食文化①

唐芋(サツマイモ)⇒サツマイモ伝来ルートには次のような説がある。

1611(慶長16)年、琉球出兵で琉球に駐留していた薩摩の兵が帰国の際に、芋を持ち帰った。

1611(慶長18)年ごろ、ポルトガル人がルソン(フィリピン)から坊津へ持ち帰った。

種子島島主 種子島久基が、1698(元禄11)年、琉球の尚貞王に芋を求め、家老の西村時乗に栽培を命じた。

1705(宝永2)年、山川の前田利右衛門が琉球から芋をもたらした。

サツマイモは、鹿児島の土壌の水はけが栽培に適していて、現在(平成28年度)、322800tで全国1位の生産量である。

順位	都道府県	収穫量	割合
第1位	鹿児島県	32万2800 t	37.5%
第2位	茨城県	17万2000 t	20.0%
第3位	千葉県	10万3500 t	12.0%
第4位	宮崎県	9万2300 t	10.7%
第5位	徳島県	2万8600 t	3.3%
第6位	熊本県	2万2700 t	2.6%
第7位	静岡県	1万1000 t	1.3%

## 郷土の食文化②

米→鹿児島はシラス台地で水通しがよく、また山も多いため稲作にはあまり向かない土地であった（末吉・吉松・日吉田・加久藤・飯野が穀倉地帯）。

焼酎⇒16世紀の初頭は米焼酎が主流であったが、サツマイモが伝来し、稲作に向かない土地であったこともあり、イモ焼酎が主流になる。

酒ずし⇒桶に酒で味付けされた飯と様々な山の幸・海の幸を盛り発酵させた豪華な寿司である。一見すると押し寿司のようにも見えるが、酢のかわりに鹿児島特有の地酒（灰持酒）が使われている。

江戸時代に当時の藩主であった島津義弘が花見の宴会を開いた際、女中が残った料理と地酒を桶に入れて一緒に置いていたところ、翌朝良い香りが漂っていた事が酒寿司の始まりとされる。



茶⇒明治維新前は都城、吉松、松山、阿久根で生産が盛んだったが、維新後お茶の品質が良くなり知覧、伊集院、松山、志布志（有明町）、宮之城、溝辺で生産が盛んになる 現在も全国2位の生産量である。

## 知覧茶

日本一の生産量を誇る鹿児島県南九州市で生産されているブランド緑茶。南九州市は、桜島の火山灰によってつくられた水はけがよく肥沃な土壌や一年を通して温暖な気候、豊富な日照などおいしいお茶を生産する条件が整っている。そのため、知覧茶の新茶は、日本一早い新茶として有名。

知覧茶は品質においても全国茶品評会で農林水産大臣賞を受賞するなど、全国的に高い評価を得ている銘茶である。2017年に「知覧茶」「えい茶」「川辺茶」は「知覧茶」に統一された。独特な深むし製法で急須に入れたときの水色は濃厚な緑色で、旨味が多く渋みの少ないのが特徴である。

## 酒ずしの作り方

1. 具はエビ、タイ、赤貝、タコ等の魚介類に蒔、筍、椎茸、錦糸卵、薩摩揚げ等を使用。
2. 地酒と塩だけで、合わせ調味料を作る。基本的に旨味調味料や酢などは使用しない。
3. 飯は普通に炊いてさましておく。その後、先の合わせ調味料を飯に混ぜる。
4. 具はそれぞれに味を付けて、魚は薄塩をして、ちらし寿司のように切っておく。
5. 冷ましておいた飯と合わせ調味料の3/4の量をよく混ぜ合わせて、4等に分けておく。
6. 寿司桶に少々塩を振り、その上に飯の1/4の量を敷き込み、平らにする。
7. 飯の上に好みの具を散らし、再びその上に飯1/4の量を敷き込む。このようにして順々に段を作っていく。
8. 最後に飯を敷いて、残りの具を彩りよく盛り付ける。
9. 上から葉らんを敷いて、中ふたをする。
10. 寿司桶の中の地酒が常にふたの上段ギリギリになるように、中ふたの上から重石を乗せて調整する。
11. 重石を調整しながら4~5時間待つと出来上がり。

## 深蒸し煎茶とは？

普通の煎茶よりも約2倍長い時間をかけて茶葉を蒸してつくったお茶を「深蒸し煎茶」または「深蒸し緑茶」と呼ぶ。

茶葉の中まで十分に蒸気熱が伝わるため、形は粉っぽくなりますが、お茶の味や緑の水色が濃く出る。青臭みや渋みがなく、また長時間蒸されることで茶葉が細かくなり、お茶をいれた際に茶葉そのものが多く含まれるので、水に溶けない有効成分も摂取できる特徴をもっている。

## 研究結果からの感想・考察

明治維新によって、大きく生活は変化したと考えていたが、私たちがイメージする明治維新後の生活は、一部の都市では変化しているが、鹿児島は早くから変化があったわけではなく、劇的に変化はせず徐々に変化していったことが分かった。江戸時代の生活がそのまま続いていた。

生活は、今にも続くものも多く歴史を身近に感じやすいと考えられる。

歴史がありながら、今も生産が盛んな茶や唐芋（サツマイモ）をいかした食または、鹿児島独自の酒ずしの提供も考えられる。旅行客のニーズの変化 モノ消費→コト消費 買い物などモノを購入することから商品やサービスからの体験を重視することへの変化にあった豊富な歴史資源をいかした観光プランを作ることが求められる。

## 他県の活動

浴衣や着物、袴など当時着られていたものを着て残っている史跡をまわる→食の体験を含めた観光を造る。

## 観光企画

課題でも述べたとおり、鹿児島市内を中心に、史跡等の歴史的観光資源は多く存在しているが、歴史についてある程度学んでいないと魅力が観光客に十分に伝わらない場合もある。

そこで私たちは、歴史についてあまり知らなくても楽しめる体験型の観光を通して鹿児島の魅力を伝えたいと考える。

鹿児島県各地に体験型施設を作り、それぞれの場所でジャンルの異なる明治時代の生活を観光客に感じてもらう。

具体的には、当時の服装の着付けや、明治時代に食べられていた食の提供をする。施設については、知覧武家屋敷など既存の史跡を生かす。さらに、体験型施設のなかでも、一部を宿泊もできるつくりとすることで数日間に渡る観光を可能にする。歴史をただ説明するのではなく、実際に観光客に体験してもらうことで、より鹿児島の歴史の魅力を伝える。

## 参考文献

- ・ 三國名勝図会 五代秀堯 橋口兼柄 1905
- ・ ビジュアルワイド明治時代館 柳町敬直 2005
- ・ かごしま新聞こぼれ話 唐鎌祐祥 2008
- ・ <https://rekisicomosim.com/meuzaidai-kurasi/>
- ・ [https://www.jri-gr.jp/stat/sweetpotato\\_201106.pdf?search=%27%E3%82%B5%E3%83%84%E3%83%9E%E3%82%A2%E7%94%9F%E7%94%A3%E9%87%8F%E6%97%A5%E5%9C%AC%27](https://www.jri-gr.jp/stat/sweetpotato_201106.pdf?search=%27%E3%82%B5%E3%83%84%E3%83%9E%E3%82%A2%E7%94%9F%E7%94%A3%E9%87%8F%E6%97%A5%E5%9C%AC%27)
- ・ <https://nipkanazawa.com/news/contributiondetail.php?cid=1https://site-google.com/site/rnshukarordinary.131>
- ・ <http://www.s-life.ne.jp/toku/beer/>
- ・ <http://www.satunaji.co.jp/feature/sakesushi.html>

吉野町の歴史観光推進の歴史観白書

鹿児島市立  
鹿児島玉龍高等学校 1年  
野口 遼太  
有嶋 瞭  
平山 和輝

〈史跡の問題点〉



△吉野に生れた偉人(1)  
桐野利秋

問題点①

吉野町の史跡が  
町内外問わずあまり  
知られていない!

問題点②

史跡の  
魅力が少ない!

来るたろくといふ吉野町は他い...

問題点③

立地条件  
交通の便が悪い!

問題点④

吉野の歴史を分かりやすく  
伝える物・施設  
が存在しない!



吉野町歴史観光ハブ施設建設計画

〜ハブ施設とは?〜

- ・吉野の歴史を町内外に広める拠点!
- ・各史跡同士を繋ぐターミナル!



〜ハブ施設の役割〜

① 歴史資料館

吉野に多く点在する史跡についてまとめた  
資料館をつくり、史跡の情報を伝える拠点とします。



- ・吉野を「歴史の町」として売り出す様となる。
- ・多くの人に史跡を知ってもらえる。

③ 物産館

吉野開墾社で育てていたとされる、「国分丈根」  
や「茶種」など吉野の歴史に関するものを販売、  
購入する場とします。



- ・吉野町に直接お金を落とすことができる。
- ・独自の商品を販売し、吉野の名を広めることができる。

問題点をいくつかのありませ...

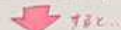
- ① 土地や費用が簡単には  
手に入らない!
- ② 吉野の歴史を伝える後継者  
(=運営者)が多くない!



△吉野に生れた偉人(2) 別府 晋介

② 舞台

舞台をつくり、吉野を舞台にした歴史劇、ミュージカル  
やシンポジウムなどを行える場とします。



- ・イベントにより、地域内外から多くの多くの人を呼び込める。
- ・吉野の歴史を学ぶに、来ることに、付加価値をつけられる。

④ 興業の場

吉野の歴史観光推進のための事務所的な役割を  
果たします。



- ・吉野で今まで無かった起業が起こるチャンスが増える。
- ・人の流れを利用して、経済活動がより活発になる。

# 吉野の地図と史跡



## ① 寺山炭窯跡

集成館事業のために使用する炭を作るために原料となる木材が豊富にある寺山に作られた炭窯の跡地。  
吉野が誇る世界遺産の1つのほずなのに、場所が奥まっているせいか行きづらく、あまり認知度は高くない。



## ② 関吉の疎水口

集成館事業のために使用する水を引くために作られた疎水口。100分の1の傾きで、正確に作られている。

吉野が誇る世界遺産1つのほずなのに、見た目はごく普通の川なので、何が面白いのかわかりにくく理解されない。



## ③ 関屋谷

西南戦争の激戦地の1つであったこの場所は、戦軍を寄せ付けず、当時の有田屋のまきで観光客をも寄せ付けず。

関所跡や平安時代からの伏着塔も残る歴史的にすばらしい史跡であるのに、あまり人は来ない。



## ④ 花倉坂

吉野台地から海岸沿いへ下りることの出来る一本道の1つで、西南戦争激戦地の1つ。

しかし、長年人があまり通っていないので、調査した時には昭和60年代のころのゴミが落ちていた。史跡にゴミを捨てるなんて許し難い行爲だ。



## ⑥ 桐野利秋誕生地

実方公園内にある西郷隆盛と共に最後まで戦った桐野利秋の生誕地。ただし、実方公園は、小さな公園で駐車場はほとんどないので、御用の際は徒歩でお願いいたします。



## ⑤ 別府晋介誕生地

西郷隆盛の下で活躍し、最期を見届けたことで知られる別府晋介の誕生地。ただし、私有地なので、午後6時以降の立ち入りは厳禁である。



## ⑧ 駄馬落の跡

西郷隆盛が駄馬を落としてしまったと言われている場所。馬の振りに慣れなかったという西郷隆盛の逸話とともに地域の人の大変さが記されている。ただし、交通量の多い道路沿いにあるため、見物したくなくれば、歩いてみることはおすすめしません。



## ⑦ 外戸口

陸奥藩吉野牧の木戸(門)があったとされる跡地。周辺を調査していた際道に迷い、たまたま見つけた。周囲は鬱蒼とした林で覆われ、文に再び自信を持つ、ここで見つけたという自信は無い。



## 〈調査方法〉

### ・実地検証

史跡を自分たちの足で調査し、直接行くことで見えた問題も多くなりました。

### ・聞き取り調査など

吉野の歴史に詳しい人たちに話を聞いたり、公開講座に参加したりして調べたことの裏付けや、調査すべきことを探りました。

### ・文献調査

吉野村郷土誌(明治45年吉野村教育会著)、西郷隆盛全集(昭和51年大和貴房著)等を使って調査をしました。



## 〈調査を終えて...〉

私たちは、今回の調査を通して、地域の歴史を未来へ継承していくことの大切さを学びました。吉野には数多くの史跡が残されています。それは吉野に限ったことではありません。これは私たちに託された先人からの宝物、そして未来への宝物です。私たちにこれを守っていくという使命があります。先人たちの思いを受け取り、若い力が地域をそして鹿児島を作っていくためには、ならぬのだということを強く感じた調査になりました。

まだまだ書ききれなかったこともたくさんあるので、気になる方は直接問い合わせてください。

### 〈御協力〉

- ・NPO法人地域サポートよしのねぎぼうず
- ・理事長 永山恵子様
- ・吉野史文会の皆様



## 明治維新150周年 「維新未来博」テーマ研究

### フェリー「さんふらわあ」 で知られざる志布志の歴史をPR!

鹿児島県立志布志高等学校2年  
春田 真幸・富高 千尋・吉原 奈那

#### <動機>

- 大河ドラマ『西郷どん』で鹿児島が盛り上がる今、自分たちの住む志布志市近辺でも、何か明治維新に関する歴史はないだろうかと疑問に思い調査を開始した。
- また歴史を調べていく中で分かったことを、志布志と大阪を結ぶフェリー「さんふらわあ」を利用できれば、県外の人たちに広く志布志をアピールできるのではないかと考えた。

#### <課題>

- 実際に志布志に、明治維新をアピールできるような歴史があるのか。
- どのような方法で明治維新に関係する歴史を調べるのか。
- 「さんふらわあ」を使って、具体的にどう発信するのか。

## 1 大慈寺の歴史

- 大慈寺は1340年(興国元年)創建の臨済宗の寺である。古くから外交の拠点としての役割を果たし、今でも貴重な品が多く残っている。住職のお話では、当時の南九州は日本の舵取りの役割を担っており、一番最初に海外と接する、文化の最先端の地だったという。古くから国外に目を向けていたため、島津斉彬や西郷隆盛を初めとする多くの先駆者達が育ったようだ。
- 写真は、250年前の貿易船の名前が書かれた板と、600年ほど前に中国から持ちこまれた銅銭。



当時は北海道(蝦夷地)と交易があり、「昆布」「灯油」という字が見られる。

約600年前(15世紀)、明浦和尚が持ち帰り、江戸時代寛永通宝が流通するまで広く使われた。

## 2 第64代住持 柏州和尚(1805~1892)

○西郷・大久保ら幕末の志士を指導!

1841年、36歳で大慈寺住職となった柏州は、鹿児島城下荒田にあった末寺である能学寺に通い、「剣禅一如(文武両道)の考えを西郷、大久保らに教え込み、彼ら薩摩の若者たちは柏州を師と仰いだ。そのため、寺田屋事件(1861)や西南戦争(1877)が起こった際には、教え子達が殺し合いをしていることに深く悲しんだという。また寺田屋事件の犠牲者の葬儀を行ったのは柏州である。

○明治維新の影の立役者

藩主斉彬が急死し、国父として藩の実権を握った島津久光は、幕政改革の実現のために薩摩はあくまでも幕王派であるという意思を朝廷に伝えたいという強い思いをもっていた。しかし、外様大名が天皇への意思を伝えることは不可能に近かった。

一方その頃、柏州に対し京都の大本山妙心寺に来るようとの勅命が下った(1861)。これをチャンスとみた久光は、薩摩の皇居守護の意思を伝えるように柏州に依頼した。当時の幕府の薩摩に対する警戒は厳しく、遣中幕府方の度重なる尋問を経て、何とか京都に到着し、天皇へ薩摩の意思を伝えることに成功した。

宮中守護の詔を授かった久光は京へ出兵、寺田屋事件を経て幕政改革(文久の改革)を実現させた。

#### ○廃仏毀釈

明治の廃仏毀釈で、鹿児島でも多くの寺が破壊された。大慈寺の住職に、他に明治維新に関するお寺がないか尋ねたところ、「そもそも鹿児島にお寺が残っていないんだよ。」という返事が返ってくるほどだった。そのように、続々と県内の寺が取り潰される中、大慈寺を守り抜いたのは柏州だった。鹿児島でも廃仏毀釈が始まったという報告を受けた彼は、前ページの写真のような貴重な宝物や書物を急いで山に隠した。柏州がいなければ、こうして600年前の宝物をみることはできなかったのだ。

正門に現在も立っている阿形の仁王像(※5)もその一つである。当時県内にあった仁王像は、全てばらばらに砕かれ、右腕は山、左腕は海、というように違う場所に廃棄された。しかし大慈寺の人々はこれをそのまま地中に隠し、騒ぎが収まるのを待った。その結果、県内で唯一、破壊を免れた仁王像として、県の指定文化財となった。現在残っている建物は、幕末の柏州の功績が認められ、壊されなかった。



※5 県指定文化財 阿形



※6 吽形

廃仏毀釈の後、この阿形だけは掘り起こされたものの、もう1体の吽形は見つけ出せず、現在の吽形は、当時廃寺となった他の寺から大慈寺に移されたものである。そのため右腕がない状態である。(※6)

廃仏毀釈について、住職はこうおっしゃっていた。「いくら明治維新、明治維新と言っても、将来のことを考えずにこういうことをするのは間違っている。あとき、寺を壊してなければ、志布志は京都や奈良と同じくらい観光地になっていただろうね。」

#### ○廃仏毀釈からの復興

廃仏毀釈によって、広大な敷地を誇った大慈寺もそのほとんどが破壊され、志布志から仏教はなくなり、人々は悲しみに暮れていた。それを見かねた柏州は、宮内省や島津家の支援を受けながら、京都から譲り受けた仏像(※7)を宝満寺跡に安置し、釈迦の誕生日である4月8日に法会を開き、志布志に再び仏教を取り戻した。現在でも「お釈迦祭り」として、その伝統は続いている。(※8)



※7 聖観世音菩薩像



※8 お釈迦祭り

※7 有限会社プロダクション・ピコーズ(https://www.globallpico.com/jp/kagoshima-shi/271265139509450/有限会社プロダクション・ピコーズ)より引用  
※8 花壇シャシヤン馬行列(左)、仏像に甘茶をかける様子(右)  
ふるさと探訪記(https://www.cnmf.or.jp/sakata/fututsukokaze/fututsukokaze/05yakanstai.html)より引用

### 3 志布志ならではの観光プラン

教科書やドラマなどでは触れられないが、こんな小さな町である志布志にも明治維新に関わる偉人たちが強いつながりがあることがわかった。大慈寺の歴史や明治維新の立役者である、柏州の功績について、地元以外の多くの方々に知ってもらいたいと強く感じた。そのため、私たちのグループはこれをわかりやすく、楽しく伝えるため次の提案をしたい。

#### (1) ドラマの製作

市では様々な観光VTRを作っている実績があるので、市の企画政策課や観光特産品協会でそのような動画作成依頼について相談したが、予算や時間の関係で市に依頼するのは難しいことがわかった。そこで今回の提案では次の通りに計画した。ドラマ製作については、地元ケーブルテレビに相談したところ、快く協力してもらえることがわかった。また製作したドラマはDVDにして配付したいと考えている。

- ・出演・脚本・・・志布志高校生20名程度
- ・内容・・・大慈寺の歴史と柏州の幕末から明治の活躍について
- ・撮影・編集・・・地元ケーブルテレビ
- ・衣装・・・地元写真館のものを借りる。

#### (2) パンフレットの製作

ドラマの他にも、今回調査した大慈寺の歴史や柏州の功績をわかりやすく紹介したパンフレットを製作する。自分たちで作ったデザインを業者に依頼する。

#### (3) さんふらわあを利用した発信

完成したDVD・パンフレットは志布志と大阪をつなぐフェリー「さんふらわあ」の船内で紹介してもらおう。(※10)パンフレットは常時置いてもらい、DVDは船内で行われるプロジェクションマッピング(※11)で放映してもらおうか、乗客に無料配付することを考えている。

大阪ー志布志の航海時間は約12時間で、その間インターネット利用は難しいため、乗客はスマホ等は使えない。この時間を利用して製作したDVDを見てもらったり、パンフレットが読まれたりして志布志に興味をもってもらうことが期待できる。

このことで大阪から来た人に、志布志をスルーさせるのではなく、降船後に短時間でも大慈寺や市内を散策してもらいたい。もし散策してもらえなくても、鹿児島ではあまり目立たない志布志にも明治維新を支えた偉人がいたことを広くアピールできる。

## オリジナル パンフレット(案)



### 4 調査を終えて

**地元、志布志**にも明治維新と関わる歴史があったことに、驚きと感動を覚えた。また、私たちの活動に賛同し、快く協力して下さる地域の方々がいっぱいいることがわかり、この貴重な歴史について、ぜひ地元以外の人にも伝えたいという思いがよりいっそう強くなった。

この活動に取り組む前は、歴史的に珍しいものを探すことに必死だったが、志布志には「さんふらわあ」があることに気づき、新しいものではなく今あるものを利用して地域興しにいかにすることが実感できた。もし、さんふらわあとの連携で志布志をアピールできるようになれば、全国的にも志布志をもっと知ってもらえるのでは、と期待する。



※ふえりーさんふらわあHP(<https://www.ferry-sunflower.co.jp/>)より引用

明治維新 150 周年「維新未来博」テーマ研究発表 研究報告書

鹿児島県立南大隅高等学校  
2年 徳留 愛佳  
木之下 詩音  
宿利原 萌衣

## 1 テーマ

観光客向けのウォーキングマップ作成

## 2 テーマ設定の理由

南大隅町は県内で高齢化率一位であり、高齢化・過疎化という課題があります。本校商業科の地域貢献コースでは、町の活性化のために、多くの機関と連携して高校生の視点で研究し実践してきました。その中で、観光地周辺の史跡や集落を散策しながら健康づくりをすることで課題を解決することができないかと考えました。

## 3 研究内容

まず、町の観光について詳しく調査・研究をする必要があると考え、町の観光課を訪問しました。そして、次の2つの取組の提案をうけました。

### (1) 南大隅町周遊バス調査学習

8月9日(木)、観光周遊バスを活用して郷土の歴史等の調査・研究を行いました。コンシェルジュの水枝谷さんの案内で佐多岬展望台、川田順歌碑、御崎神社、佐多旧薬園、雄川の滝などをまわりました。

#### 【佐多岬灯台】

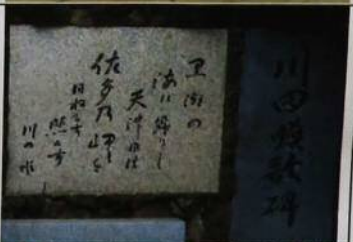
佐多岬灯台は、佐多岬展望台から50m沖合の大輪島にあります。英国人のリチャード・ブラントン(当時27歳・日本の灯台の父)により明治2年(1869年)着工、鉄造灯台として明治4年10月18日に初点灯しました。日本最古の灯台の一つです。昭和20年3月18日に太平洋戦争の米軍空襲で破壊されましたが、昭和25年5月にコンクリート作りで現在の灯台が再建されました。



#### 【川田順歌碑】

佐多岬展望台の下にあります。「黒潮の海に昇りし 犬津日は 佐多乃岬を 日ねもす照らす」黒潮渦巻く太平洋に昇った神々しい太陽は、一日中佐多岬を守るように照らし続けているという意味です。この和歌は、対岸の長崎鼻から佐多岬を臨み、歌ったといわれています。

昭和38年夏、全国の政財界などから寄せられた浄財で作られました。



#### 【御崎神社】

創建は和銅元年(708年)で大八洲(日本)の守護神といわれています。縁結びの神、交通・航海安全の神、五穀豊穡・安産の神です。広く各地から参拝されていて、島津斉彬公、柳田国男、川田順、八島太郎も参拝しました。

御崎祭りは、2月20日または21日、現在はここに近い良き日を選んで行われ、かつては多数の来客があったそうです。



### 【佐多旧薬園】

昭和7年、国指定史跡になりました。設置時期は25代島津重豪といわれます。家老の新納時升が藩主にリュウガンを献上するために宝暦年間に開発しました。山川、吉野にも薬園がつくられましたが、昔の姿で現存するのは佐多旧薬園のみです。現在も薬園にはリュウガン、レイシ、オオバゴムノキ、パンジロウ、アカテツ、クワズイモなどが植栽されています。



### 【雄川の滝】

南大隅町根占と錦江町田代を流れる雄川にあり、両町の町境に位置する滝です。高さ46メートル、幅60メートルで、断崖から50メートルの所にダムもあります。雄川発電所は県下一の水力発電で、発電所のダムで水量を調整しています。宝暦元年（1751年）24代島津藩主島津重年（円徳）公も来遊されました。大河ドラマ「西郷どん」のオープニングにも使われ、観光客にも人気です。



### (2) 南大隅町地域交流イベントきもだめし

8月25日（土）、南大隅町青年団が主催する地域交流イベント「きもだめし」に参加しました。一昨日の設営・準備から手伝い、当日は約20組の接客をしました。



### 研究の結果（感想）

- ・周遊バス・・・【良い点】 コンシェルジュのすごさを知った。  
【悪い点】 佐多岬、雄川の滝まで歩く距離が長い。料金が高い。
- ・きもだめし・・・【良い点】 本格的で、運営の内情がよく分かった。  
【悪い点】 お客様の待ち時間が長い。懐中電灯の工夫がほしい。

観光の取組を進めるには、色々気をつける部分があることが分かりました。

### 4 研究を活かした取組

#### (1) KJ法・ブレインストーミングによる話し合い

9月21日（金）、25日（火）、町の主催する観光を体験した私たちは、今後どのような活動をするのかをKJ法とブレインストーミングを用いて話し合いました。その結果、次のような意見が出ました。

- ・紹介動画の作成
- ・養殖関係の体験イベント
- ・観光地にあった商品開発
- ・ウォーキングマップ作成

そのなかで、特に意見が多かった「ウォーキングマップ作成と紹介動画の作成」に決定しました。



## (2) ルート決定

次に実際に歩くルートの決定を行いました。全体の距離は3km以内、学校をスタートしていくつかの名所を回り学校に戻るルートを検討しました。その結果、西郷南州翁宿所・なんたん市場・ネッピー館・雄川・南蛮船係留の大楠、南大隅町図書館に決定し、担当を決めてどのような説明をするのかそれぞれ考えました。

## (3) ルート下見

11月5日(月)の3・4時間目、実際にコースの下見をしました。カウンターメジャーと万歩計を使って距離を測り、各名所をどのルートで回るのか、誰がどのように説明するのか、カメラの位置などを確認しました。



## (4) 撮影本番

11月16日(木)の5・6時間目と放課後、南大隅町地域おこし協力隊の山下大裕さんのご指導のもと、ウォーキングマップの動画撮影を行いました。名所の紹介やカメラ、マイク、レフ板の係は交代で行いました。

30分くらいで歩けるコースですが、各名所に20分ずつ合計4時間かかりました。音声と動画を別々に収録しましたが、原稿を間違えたり、車の音が入ると撮り直しになるなど、撮影の大変さが分かりました。



## 4 今後のスケジュール

今後は、動画編集やマップの作成を中心に活動を行い、今年度中には完成させて、南大隅町ブロンズ人材センターや学校ホームページで公開する予定です。

2019年1月	}	動画編集およびマップ作成
2月		
3月		
4月	動画・マップ完成および公開	
5月	スライド・報告書のまとめ	
6月	発表大会に向けての練習・準備	
7月	第27回鹿児島県高等学校生徒商業研究発表大会に参加	



## 愛加那から細ぐ「結いの心」



# 鹿児島県立 大島高等学校

内野 透佳, 諏訪 朱音, 西 愛海



西郷隆盛

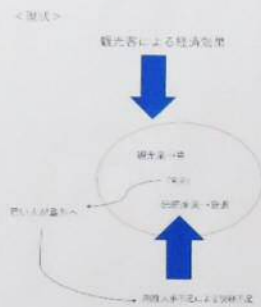


愛加那

@pref.kagoshima

### (1) 研究目的

私たちの住む奄美大島は、人口減少や高齢化進行による雇用機会の縮小や伝統産業の衰退に直面しています。



奄美の人口減少に伴う負の連鎖を克服し、みんなが幸せに暮らせる地域づくりに貢献したいと考え、私たちの研究目的を「持続可能な社会実現のために、明治の先人から学べることは何か？」と定めました。

### (2) 研究方法

文献調査と並行して、明治時代の奄美をより詳しく調べるために、7月23日(月)の午後、「明治日本と産業革命遺産」の研究をなさっている、鹿児島県大島支庁総務企画部の田中完部長にインタビューを行いました。



島津斉彬公が白糖製造を命じたことが、のちの五代友厚の富国強兵策 (= 上海貿易の利益で白糖製造を行い、軍艦や紡績機械等を買付ける「オオシマ・スキーム」) につながり、奄美でも金久、須古、久慈、瀬留に白糖工場が建設されたこと等、貴重な郷土史も教えていただきました。

また、西郷隆盛が奄美に来て変わった話も伺いました。「奄美をみてしまったから、西郷隆盛は日本史を変えた、と思う。奄美に来て、西郷は何に気付いたのか。上ではなく、下をみる政治の必要である。民のためにならぬ国なら、主君や天皇にさえ背く。奄美に来て、西郷は、そういう西郷になった」。この話がとても印象的でした。

西郷をして歴史を変えしめる原動力となった奄美、とくに彼を支えた愛加那について強い関心を抱いた私たちは、彼女に焦点をあてて更に研究を進めようと考え、11月18日(日)の午後、大島郡龍郷町にある南洲流謫跡で、(愛加那の甥の孫にあたる) 龍昭一郎氏に話を伺いました。

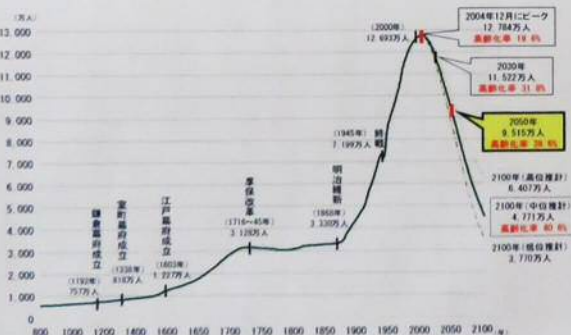




当時の封建的身分制度や島差別の偏見等から正式に婚姻関係を結ぶことは出来ませんでした。愛加那はベースに愛を持ちながら行動すべき時は断固として行動しました。そしてその行動は、他人からの評価ではなく、大義や使命から生まれています。西郷の「敬天愛人」には、このような愛加那の生き方も影響を与えていると思います。私たちは愛加那の生き方から、全てを優しく包み込む「結いの心」を学びました。

### (3) 結果・考察

150年前の明治期と現在を比較した際、明らかに異なる前提として総人口の長期的トレンドが挙げられます。明治の先人は欧米列強と渡り合うため「富国強兵」のスローガンを掲げて、人口をはじめ様々な分野で拡大・成長路線を歩んできました。太平洋戦争後もその方向性は変わらず、「経済成長」の下に拡大・成長を重ねた矛盾や疲労が現在、様々な形の社会問題となって現れてきています。私たちに現在の日本がまるで、挫折して精神的に追い詰められていた西郷の姿のように見えます。



出典：「国土の長期展望」中略より転載（平成23年2月21日国土審議会政策部会長期展望委員会）

上図から読み取れるように、現在は150年前と異なる明らかな人口減少社会です。拡大・成長志向そのものを根本から見直し、もっと人々がゆとりをもって生活を送れるような豊か

で安心できる成熟社会のビジョンを開くために、明治維新150周年を迎えた今こそ、愛加那の生き方から学んだ、常識にとられない豊かな世界観を取り戻す必要があります。同時に、明治以降の急激な人口上昇カーブの過程で日本人が失ってきた、全てを優しく包み込む「結いの心」を再評価することが大切です。

### (4) 結論及び今後の展望

私たちの研究目的「持続可能な社会実現のために、明治の先人から学べることは何か？」の答えは、「結いの心を活かしたコミュニティ再生」です。愛加那が与えた影響や資本主義導入期の経済倫理（渋沢栄一など）を参考に、経済とコミュニティの相互扶助的性格を結びつける可能性を探りたいです。ヒト・モノ・カネが地域内で循環するような仕組みを作り、グローバル経済の浮沈や不況に対しても強いコミュニティを再生して地域活性化を図ることが大事です。

明治以降のモノを大量に売り買いつけて稼ぐ拡大・成長モデルとは異なり、現在はIoT、ビッグデータ、AI等の技術が進展したことで、消費のスタイルもモノの所有からサービスを体験するコトを重視する方向に変わりつつあります。人口減少と経済のローカル化、サービス重視の傾向が進む今後の社会では、福祉や教育といった人が人をケアするような労働集約的な分野の発展こそが、経済の観点から見ても生産性が高くなります。愛加那と出会った西郷が後の日本を変えたように、人と人とのコミュニケーションやケア自体がポジティブな付加価値を生み、新たなアイデアやニーズを創造することになります。

今後はこのような観点を活かしながら、①「商店街活性化（＝歩いて楽しめる商店街を、高齢者向けケア付き住宅や子育て世代・若者向け公的住宅等とも結びつけつつ、世代間交流やコミュニティの拠点にする）」と②「空き家を利用した幼稚園（＝奄美の多様な人材を交流資源として活用し、安心して子どもを産み育てることができる環境をつくる）」のアイデアを具体的に進めていきたいです。

### 参考文献

奄美大島総合戦略推進本部 2015「奄美大島人口ビジョン」奄美市  
<https://www.city.amami.lg.jp/kikaku/documents/amamiwooshimajinkouvission.pdf>  
 奄美市 2018 数字でみる奄美市（統計データ）奄美市民の暮らし 2018年3月29日更新  
<http://www.city.amami.lg.jp/kikaku/shise/toke/t-data/index.html>  
 馬場正樹、Open A 編著 2015「PUBLIC DESIGN 新しい公共空間のつくりかた」学芸文芸出版社  
 猪熊弘子、寺町康子 2018「子どもが育つ子育て支援施設」保育館内外出版社  
 徳田道史 2018「SKYWARD JAL 機内誌 2018年6月号」  
 櫻井隆一編著 2014「保育」の大切さを考える新読書社  
 産経新聞 2014「産業衰退と人口減」西の奄美 鹿児島 2区報道 2014年4月23日  
<https://www.sankei.com/region/news/140423/rgn1404230060-n1.html>  
 志村和成 2013「シニア起業の成功術」中央経済社  
 田中定 2018「世界文化遺産『明治日本の産業革命遺産』奄美」奄美六社会代表者会議

# 与論高等学校

県立与論高等学校 1年  
 小林 大和  
 徳田 敦  
 林 馬世  
 和宇慶 大樹

## 産業の近代化と与論

～日本の産業革命を支えたユンマントウの魂～



口之津町（現南島原市）との姉妹町協定書調印式

鹿児島県立与論高等学校  
 小林 大和 徳田 敦  
 林 馬世 和宇慶 大樹

## 2. 移住への道のり

・明治時代の与論島

→ 地租改正などの近代化政策は行われたが、サトウキビ栽培中心の貧しい生活  
 But, 人口増加！！  
 度重なる台風・疫病！！

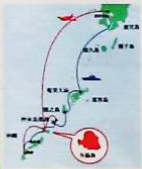


島民の暮らしは  
 苦しいまま！！



## 1. テーマの設定

・与論島 → 鹿児島県（薩摩藩）最南端の小島  
 → 明治時代まで沖永良部島の代官所により支配



明治維新の激動からは取り残された世界！！

何をやれば  
 よいのだろう??



・明治31年（1898年）の台風

→ 与論に壊滅的な被害！！  
 → 農作物も全滅し、飢えに苦しむ島民が激増！！  
 → ソテツの実を粉にして飢えをしのいだるが、毒があるため多くの人が中毒症状に苦しんだ



粉を水にさらす毒抜きが必要だが、空腹のあまり不十分のまま食べる人が多かった...

明治時代に与論を出て移住した人々の話を聞いたことがあるぞ！！



明治時代に「島立ち（=島を離れること）」をした先人を調べ、与論が日本の近代化に貢献したことをアピールしたい！！

明治時代に与論から集団移住した人々をテーマにしよう！！



このままでは与論の将来があぶない！！

小さな与論島では、大勢の人を養っていくことはできない。いっそのこと、住みやすい新しい場所に移住し、第二の故郷を建設するのはどうだろうか??



与論戸長 上野應介

住民と粘り強く交渉し、石炭の積み出し港として栄えていた長崎県口之津村（現：島原市）への移住を決定！！

## 研究のすすめ方



与論の歴史に詳しい方の話を聴く  
 (与論郷土研究会の穂才良さんの講話)



与論の資料館などで調べる  
 (与論町サザンクロスセンター)

※そのほか文献や電話での聞き取りなどを行いました。

## 3. 移住先での労働

・明治32年（1899年）に  
 移民団の第一陣が口之津に到着  
 But, 待ち受けていたのは...

三日三晩石炭を運ぶ厳しい労働  
 &  
 周囲の人々から「ヨーロン」と蔑まれ差別される生活

ヤンチョイ サラサラ  
 (積み出しの時のかけ声)



沖積み作業に従事する労働者

苦しくても移住した人たちが  
 団結してがんばりました！！



- ・与論長屋とよばれる狭い部屋で生活し、他の地域の労働者よりも格段に安い賃金でこき使われる生活



与論長屋（復元）

→ 黙って耐える与論人！！

馬鹿(ウセー)ラは馬鹿(ウセー)リ, 熟(フナ)シ  
 ラハ熟(フナ)シ, 熟(フナ)シ田(ター)ヌ米(マイ)  
 ヤ畦(アブシ)枕(マクラ)  
 【訳】馬鹿にするなら馬鹿にせよ, 使い熟すなら  
 使い熟せ。徹底して熟された田にできた米は,  
 やがて畦枕するくらいに実り豊かである。

苦しい生活を少しでも楽にするために、立ち上がる人々も現れてきた！

与論移住者が文化的な影響を与えたと指摘する意見も...

島原の焼酎文化は、与論からの移住者が家庭内で製造していた蒸留酒の影響を受けているのではないかと。



与論と与論から移住した地域とのつながりは今でもあり、それらを地域振興につなげていくことが今後の課題である。



口之津歴史民俗資料館  
 森 輝隆館長

#### 4. 労務環境の改善への闘い

- ・劣悪な労働環境を改善する動き
- 明治末期：三池港が大牟田近郊に完成し三池へ移住
  - 会社に対して労働環境の改善を要望
- 大正期：「元口」という組合をつくり、他地域の労働者に対抗
  - 大正デモクラシーを背景に権利意識向上のための労働運動を展開
- 昭和期：少しずつ権利が認められ、労働環境が改善
  - 地域でも存在感を發揮し、現在に至る

#### 6. 感想 ～活動をおえて～



徳田 敦

自分が住む与論島について、いろいろなことを知ることができて良かった。辛い環境のなか、与論からの移住者が文句もいわず仕事をしたということを知り、私もそのような姿勢を見習いたいと思った。

私は今回の研究を通して多くのことを学んだ。与論の人々の苦勞や苦難など私たちが今楽しく過ごすことができてるのは、先代の人たちががんばってくれたおかげなんだと思います、胸が熱くなった。



小林 大和

#### ・現代につながる移住の歴史

- 与論の人々は団結し移住先の地域行事も全力で取り組むなどして、存在感を増していった
- 現在では、与論町と口之津町（現：島原市）が姉妹都市提携を結び、大牟田にも与論会が存在している



口之津町での与論館落成式



与論に建てられた上野啓介戸長を顕彰する石碑



林 馬世

与論の昔の人たちは、差別や土地の気候などが違う中でがんばって働いており、「誠の島」としての個性が出ているなど感じた。昔の人々のおかげで今の与論があるという意識を忘れずに生きていきたい。

与論の人々は、昔からいろいろな災害などに悩まされていたことがわかった。しかし、全員で考え強い気持ちを持って、苦しい生活を乗り越えている姿は与論に住んでいる僕たちの誇りだと感じた。



和宇慶 大樹

#### 5. おわりに ～地域振興へ向けて～

- ・「十九の春」→ 昭和50年（1975年）に田端義夫が歌い、全国的なヒットに！！



十九の春世界大会の様子

炭鉱で労働に励んでいた与論移住者が歌っていた「与論ラッパ節」がもとになっているという

与論では島おこしのため毎年「十九の春」世界大会を開催